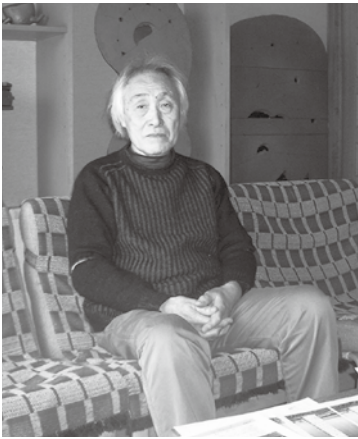
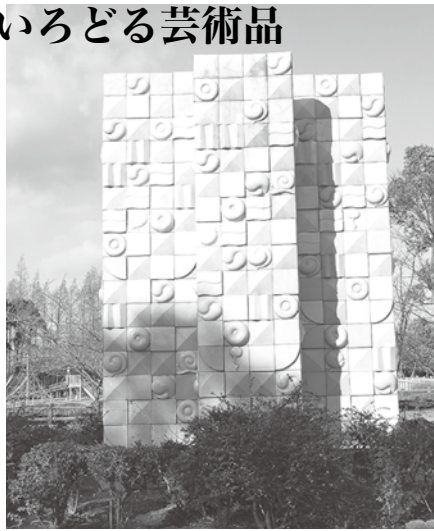


“やきもののまち”をいろどる芸術品



▲神谷英介さん
高浜市在住で愛知県を代表する
現代陶芸家の1人
(主な受賞歴)
日展特選、朝日陶芸展大賞
現代工芸展現代工芸賞



▲「奏でる樹」(中部公園入口)
昭和63年設置。自然、鳥、虫
の声、人々の語らいもイメージ
されている。よく見るとカタツムリ
やおたまジャクシ、鳥のレリーフ
がほどこされていて楽しい。



▼「萌芽」
(国道419号沿い、
「豊田町」信号東側)
平成4年制作。鬼瓦を
イメージさせるレリーフ
もはめ込まれている。



陶製モニュメント

陶芸家・神谷英介さん作「奏でる樹」「萌芽」

“撮っておき” の たかはま 【第26回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

高浜市は古くから瓦や陶管などをつくってきた「やきもののまち」である。それを象徴する陶製のモニュメントが、まちのそこかしこに設置されているのを知っている方も多いのではないだろうか。

これらは、昭和の終わりから平成のはじめにかけて、市内の陶芸作家らにより制作された。その1人、陶芸家の神谷英介さんに伺うと「昭和40年代、陶芸界には『内から外へ』というムーブメントがおこり、家の中のものであった“やきもの”は屋外でも存在感を示すものになりました。コンクリートの街並みに柔らかさや彩りを添えるよう、新しい景観づくりに活用されるものになったのです。」と、まちなかの芸術の成り立ちを話してくれた。また、「やきもののまちを象徴する作品をと依頼をうけ、2作品を制作しました。中部公園の『奏でる樹』は音楽的なリズムカルなかたちを基調に、『育つ』というイメージを表現しました。また、国道419号沿いにある『萌芽』は、市境のゲートモニュメントということで、高浜市の代表的な産業である瓦やいらか葺を連想させるようにと考えました。今となって思えば、大変な体力仕事でしたね。」と振り返る。

四半世紀を経て、たかはまの風景の一部となっている作品を、近くでじっくり見直してみると新鮮な発見がある。ときには足を止めて、まちなかの芸術品を鑑賞してみては？

LELA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでもください！

広報 **たかはま**

編集・発行／高浜市役所総合政策グループ
〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110
<http://www.city.takahama.lg.jp/>
電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。